

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	宮田村食育MogMogママの薬箱事業
事業主体 (連絡先)	みやだ食育MogMog 代表者 高橋智絵 住所: 宮田村 7501 番地 11 TEL090-6154-1837
事業区分	保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	600,479 円 (うち支援金: 450,000 円)

事業内容

食育MogMog2年目として、1年目の事業をベースとして以下の事業を実施した。

- ①MogMog ステップ⇒幼児期の母親を対象に1年目の事業を継続(全6回)
- ②MogMog ファミリー⇒食についてパパの理解向上
- ③MogMog ベビー⇒離乳食、幼児食の教室(全6回)
- ④MogMog チャレンジ⇒1年目参加者を対象により深く学ぶ講座を開催(全6回)
- ⑤MogMog キッズ⇒小学生を対象にうめっこ塾(別事業)を開催し、体験型ワークショップを実施し、子どもへ食育。



【調理風景】

事業効果

参加者である母親たちが主体的に関わることにより、参加者の要望に柔軟に対応し、講座の内容に反映することができた。そのため、学んだ知識をより実践的に家庭においていかし、子ども達だけでなく、その家族も含めた健康づくりにつなげることができた。また、家族参加を想定した講座を企画したことにより、男性(父親)の参加も多くあり、食への関心をひろめることができた。

MOGMOG ステップ(ママの薬箱講座)参加者増加 回平均 前年比 117%

- ・多様な講座やイベントを実施したことで、参加者の枠をひろげることができ、今までなかった小学生、父親(男性)の参加が多かった。
- ・他団体から、サークルやイベントへの参加依頼や講師依頼があり、広域への食育推進活動ができた。

今後の取組み

3年目は、食育MogMogのスタッフが幼児期、小学生時期、中学生時期それぞれの段階で体験型ワークショップを実践する。

親子、シニア世代、食品加工業者、生産者、教育現場など多くの方々の参加による「食育講演会」を開催する。

活動内容をパネル紹介し実際の記録をもとに家族の健康の変化を発表する。

【目標・ねらい】

- ①地域の食による体験型ワークショップ
- ②食育推進の地域リーダーの育成
- ③子育て世代への食育の推進
- ④広域的な参加

※自己評価【 B 】

【理由】

充実した体験型ワークショップができた。
参加者を毎回20組で見込んだが多い少ないがあった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある